

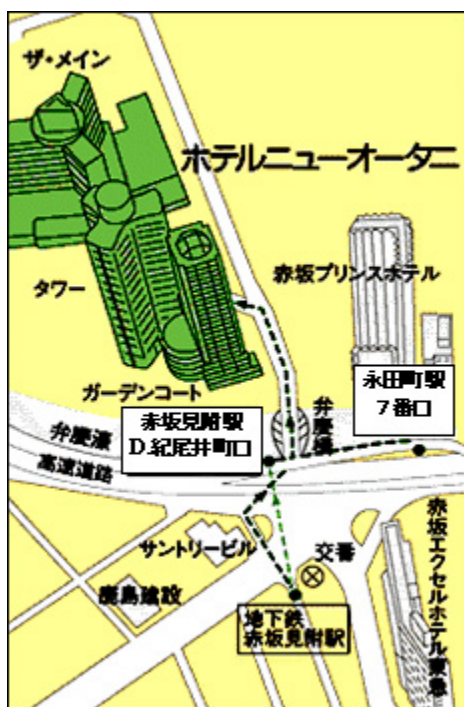
ARIBからのお知らせ

第30回通常総会の開催のお知らせ

第30回通常総会を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。  
また、総会に引き続き、第21回電波功績賞表彰式及び祝賀会を開催しますので、併せてご出席下さい。

記

- 1 日時 平成22年6月15日(火) 午後4時30分から午後5時15分まで
- 2 場所 ホテルニューオータニ 鳳凰西の間 (ザ・メイン宴会場階)  
千代田区紀尾井町4-1 (電話03-3265-1111)
- 3 議題
  - (1) 平成21年度の事業報告及び収支決算について
  - (2) 補充役員の承認について
  - (3) その他



会場への交通アクセス

- 地下鉄半蔵門線/南北線・永田町駅下車  
徒歩3分
- 地下鉄丸の内線/銀座線・赤坂見附駅下車  
徒歩3分
- 地下鉄有楽町線・麴町駅下車徒歩6分
- 地下鉄丸の内線・南北線/JR中央線/  
総武線・四谷駅下車徒歩8分

【連絡先】

社団法人電波産業会  
総務部 宮田  
電話：03-5510-8590  
FAX：03-3592-1103

ホテルニューオータニの案内図

第76回規格会議を開催（続報）

第76回規格会議(平成22年4月26日)における策定又は改定の概要(第6～14項)を、前号に引き続き掲載します。

6 高度広帯域衛星デジタル放送におけるダウンロード方式標準規格  
(ARIB STD-B45 1.0版)

2008年7月の情報通信審議会・放送システム委員会において、STD-B44「高度広帯域衛星デジタル放送の伝送方式」で規定されたTLVによる蓄積型放送サービスを行うためのダウンロード方式を規格化したものです。

本標準規格で規定する方式は、放送と通信が連携することを前提に、ニーズの高いコンテンツは放送伝送路を用いて一斉配信し、個別にリクエストされるコンテンツやライセンスは通信伝送路を用いて個別に配信するハイブリッド型の方式です。

本標準規格の特徴は下記のとおりです。

- (1) ダウンロードサービス用として、映像フォーマットは2160/60Pまでを、映像符号化方式はMPEG-4 AVC方式を採用しました。
- (2) 音声符号化方式は、MPEG-2 AAC方式とともにロスレス符号化方式としてMPEG-4 ALS方式（22.2chまで）を新規に採用しました。
- (3) データ伝送方式としては、IPヘッダ圧縮方式によりIPパケットのヘッダを圧縮することで、伝送効率を高めました。圧縮されたIPパケットの伝送方式は、TLVパケットによる伝送方式を採用しました。

その他規格全体として、既にサービスが始まっている通信回線によるダウンロードサービスの方式と整合性が取れるように留意しました。特に、受信機モデル、DRM仕様など受信機に依存する部分については、外部規格を参照しました。

7 サーバー型放送における符号化、伝送及び蓄積制御方式標準規格  
(ARIB STD-B38 2.0版)

主な改定内容は次のとおりです。

- (1) 高度広帯域衛星デジタル放送におけるダウンロード方式標準規格（STD-B45）の規定に伴う改定
- (2) 標準規格書構成の見直し
- (3) 項目番号等の変更、補足、誤記訂正、表現の明確化及び用法の統一

8 デジタル放送における映像符号化、音声符号化及び多重化方式標準規格 (ARIB STD-B32 2.3版)

主な改定内容は次のとおりです。

(1) ロスレス音声符号化方式規定の追加

MPEG-4 ALS( Audio Lossless Coding)方式規定の追加

(2) 誤記訂正

9 デジタル放送に使用する番組配列情報標準規格 (ARIB STD-B10 4.8版)

主な改定内容は次のとおりです。

(1) 高度広帯域衛星デジタル放送のダウンロード方式に関連する規定の追加

(2) 識別子の割当状況の更新

(3) 参考文献の更新

10 デジタル放送用受信装置標準規格(望ましい仕様) (ARIB STD-B21 4.9版)

カーエンタテインメント用途の拡大に伴い、車載等デジタルインタフェースであるGVIF(Gigabit Video Interface)をSTD-B21のデジタル映像出力の規定に追加しました。

11 5.1chサラウンド番組の制作技術ガイドライン技術資料 (ARIB TR-B30 1.0版)

デジタル放送の普及に伴って、5.1chサラウンドサウンドを用いた臨場感の高い放送への期待が高まるにつれ、スタジオでのサラウンド番組の制作機会が増加しています。サラウンドサウンドの技術規格は放送関連、機器関連、スタジオ関連など多岐に渡っており、実際の番組制作にはこれらさまざまな知識が必要とされています。これら関連する標準規格を考慮しつつ、サラウンドの放送番組を制作する際に特化した、準拠すべきガイドラインの策定が望まれていました。

本技術資料は、サラウンドサウンドに関する各種規格・文献を参考に、デジタル放送におけるサラウンド番組を制作する際に参考とすべき事柄をまとめたものです。本ガイドラインに則りサラウンド番組が制作されることで、制作時に意図した音響表現が視聴者の再生環境で可能なかぎり再現できること、制作現場での機器運用や素材交換が円滑に進められることを目的としました。

記載内容の項目は、以下のとおりです。

(1) 一般事項

(2) 再生環境

(3) 録音

(4) 標準サラウンドテスト音源

(5) ダウンミックス

(6) サラウンド番組制作時の注意点

(7) 解説、参考資料

## 12 ファイルベースによる番組交換方式技術資料 (ARIB TR-B31 1.0版)

近年、放送機器は、メモリーカードカメラ、ノンリニア編集機、IP伝送機器などIT技術をベースにしたものが実用化されています。このため、これらの機器間で受け渡す放送素材はファイルとして取り扱うことが多くなってきました。このような状況を踏まえ、放送コンテンツ(主に編集済み素材)についてMXF(Material eXchange Format)方式を基本としたファイルベースによる番組交換方式を運用ガイドラインとしてまとめました。

記載内容の項目は、以下のとおりです。

- (1) ファイルベース番組交換方式のスコープ
- (2) MXF規格の解説
- (3) 映像・音声データのファイル化
- (4) 字幕データ・補助データのファイル化
- (5) 番組交換メタデータ
- (6) パッケージ配信
- (7) 参考

## 13 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料(ARIB TR-B14 4.1版)

主な改定内容は次のとおりです。

- (1) 運用概要：第二編改定に伴う用語の追加
- (2) 第二編 地上デジタルテレビジョン放送 受信機機能仕様書：GVIFインタフェース規定の追加（車内等のデジタルインタフェースであるGVIFを使用可能とするための規定追加をしました。）

## 14 BS／広帯域CSデジタル放送運用規定技術資料 (ARIB TR-B15 4.9版)

第二部 広帯域CSデジタル放送運用規定及びBS・広帯域CS共用デジタル受信機機能仕様 第七編 広帯域CSデジタル放送 送出運用規定（第四分冊）

主な改定内容は次のとおりです。

- (1) 「株式会社キッズステーション」の追加
- (2) 「マルチチャンネルエンターテイメント株式会社」の社名変更
- (3) service\_id一覧の更新

第72回電波利用懇話会を開催

5月19日、当会の会議室にて、第72回電波利用懇話会を開催しました。

今回は、総務省情報通信国際戦略局情報通信政策課の林弘郷参事官補佐及び総合通信基盤局電波部電波政策課の野水学企画官を講師にお迎えし、「放送法等の一部を改正する法律案について」－60年ぶりの抜本改正－という演題で、2010年3月に閣議決定され、現通常国会で審議されている通信・放送分野の法体系を60年ぶりに抜本的に見直すこと等を内容とする「放送法等の一部を改正する法律案」について詳しくご説明いただきました。

全体をとおり、受講者の高い関心を集め、熱心に聴講をいただきました。



第72回電波利用懇話会の様子と総務省 林参事官補佐（左）及び野水企画官